

◎ ごみ処理広域化のメリット・デメリットの検証結果

(ごみ処理を広域化で行った場合と個別処理した場合の比較を行った。)

項目	比較内容	検証の結果
経済面	メリット 施設の集約化により、スケールメリットが生じ、施設建設費や維持管理費の削減が期待されます。	広域化の最大のメリットは、現在、構成3市村内に2施設ある焼却施設を1か所に集約することで、施設建設費や維持管理費の削減を図るところにあります。
	デメリット 収集運搬距離の延伸に伴い、運搬経費の増加や、中継施設等の整備費用が発生する可能性があります。	運搬経費は、広域化により増加が想定されますが、施設建設費と維持管理費の削減により、ごみ処理に係る経費全体では経費を抑制することが可能となります。
環境面	メリット 施設の統合、集約化により、環境への影響を低く抑えることが可能となります。 また、建設費が削減できる分、環境や景観対策に充てることができます。	施設を分散させず、集約化して、環境対策を講ずることにより、環境への影響を低減することが可能となります。 また、景観にマッチした施設デザインに配慮したり、緩衝帯を広くとることにより、施設をより目立たなくする工夫などができます。
	デメリット 廃棄物や運搬車両が集中することに伴い、施設周辺の環境負荷の増加や、運搬距離の延伸による車両からの二酸化炭素発生量が増加する可能性があります。	ごみ減量化を推進することにより、運搬車両の台数の縮減を図り、周辺環境への負荷の低減を図ります。
技術面	ごみ処理の集約化に伴い、一定量のごみが確保でき、ごみ質の均一化に伴い安定的な施設の稼働が可能となるとともに、より高度な技術を活用することが可能となります。	ごみ処理の集約化に伴い、一定量のごみが確保でき、ごみ質の均一化に伴い安定的な施設の稼働を図ることができます。 なお、ごみ量の確保を目的として、構成市村以外のごみまで持ち込んで焼却処理することはありません。 また、ごみ減量を進めても、なおかつ出てしまうごみを適正に処理するため、ごみの減量化を進めるとともに、処理施設を適正規模とし、より高度な技術を採用することとしています。

	デメリット	技術面において、想定されるデメリットはありません。	
資源化面	メリット	ごみ処理の集約化に伴い、一定量の資源物の量が確保できるため、流通過程での合理化を図ることができます。	3市村が連携して、排出区分や収集形態の統一を図り、資源化率の向上を図ります。
	デメリット	ごみの収集段階において構成市村内の排出区分や収集形態の統一を図る必要があります。	